自然界のユートピア

発行所　大野市陽明町３丁目
大野地球科学研究会
編集責任者　橋本恒夫
第 103 号
平成10年３月13日　発行

目　次

1 前　口　上
2 年間計画（生物 地質 天文）
3 城地氏 昆虫レポート
4 第4回 手取群化石産地ﾚﾎﾟｰﾄ
5 第4回 手取群化石産地ﾚﾎﾟｰﾄ
6 地研合宿報告
7 WINTERｶﾝﾄﾘｰｽｸｰﾙ参加報告
8 〃
9 第4回 タイ日食観測道中記
10 〃
11 〃
12 編集室から「こんにちは」

前　口　上

＜＜奥越の自然＞＞

近年、奥越の自然がおかしくなっています。

東京で大雪が何度も降った１月、奥越の道路には砂ぼこりが舞い、およそ豪雪地帯の景色とは思えませんでした。

この頃、東京から大野に講演に来られた先生が全く雪のない大野盆地を見て「雪国の東京からやって参りました」と述べられたそうです。

本格的な雪が奥越に降り始めたのは１月１６日頃からでした。

スキー場は一安心できましたが、民宿やスポーツ店など雪を売り物にする業界は最近の不景気と重なり、大きなダメージを受けたことでしょう。

暖かいために冬物衣料は出遅れ、バーゲンが例年より早く始まりました。

積雪量が極端に少ないと、市民生活に利用する地下水や農業用水まで心配しなければなりません。

奥越の冬に適度な雪は不可欠なのです。

また、近頃スズメやツバメが少なくなったように思います。彼等は一体どこへ行ってしまったのでしょうか。

どうしても好きになれないカラスの群れだけが目につきます。

蛇も、亀も、タニシも滅多にいなくなりました。

以前は車にひかれた蛇を道路に見掛けましたが、最近はまずお目にかかれません。

たんぼには蛙やミミズがほとんどいなくなりました。

こんな死んだようなたんぼの土を見ていると、なにか得体の知れない暗いものを感じてゾッとすることがあります。

奥越地方は自然が豊かなようにも思えますが、多くは人間の都合で加工されたものです。

本来の自然の姿は、和泉村の山奥まで行かないと会えないのかも知れません。

＜＜しし座流星雨に期待＞＞

百武彗星・ヘール・ボップ彗星と二年続けて大物がやってきて、天文界は大いに盛り上がりました。

しかし３年続けて大彗星を願うのは無理でしょう。

そこで期待されるのが「しし座流星群」が大化けして、天から「流星雨」が降り注ぐことです。

「しし座流星群」は、３３年周期で太陽の周りを回っているテンペル・タットル彗星のまき散らした小さな塵の集まりに地球が突っこんで起きる「流れ星の団体さん」です。

飛んで来る方向に獅子座があることからこの名が付きました。

来年が１９６６年の大出現から３３年目に当たります。

しかし過去の観測結果から推測すると今年も母彗星テンペル・タットルがまき散らした塵の密集した空間に地球の軌道がうまく重なる可能性が高いそうです。

うまくいけば「１時間に何個」というレベルではなく、「一秒間に何個」という流れ星が出現するかもしれません。

流星群のピークは１１月１７日～１８日の毎朝一時頃からの東の空です。

この時期の深夜はかなりの寒さですが、１９日が新月なので月明りはなく、最良の条件で観測できます。

嬉しいことに、最近の研究によると日本付近で極大の可能性が高いそうです。

１７９９年、探検家のフンボルトが南米のベネズエラを旅行中にしし座流星雨に遭遇。

「明るい流星が東、東北から流れ、月の直径の３倍の天球面に火球を見ないスペースは無かった」という記録が残っています。

一生に一度見られるかどうかの華々しい「流れ星シャワー」を見逃す訳にはいきません。

＜＜恐竜博物館続報＞＞

第１０２号で恐竜博物館の建設計画についてお知らせしました。

現在、長尾山の工事現場では木を切り払い、整地工事が急ピッチで進行中です。

再来年の夏休みまでには博物館を完成させ、「恐竜エキスポふくい２０００」を開催する予定です。

勝山市民の博物館に対する関心も徐々に高まっているようで、昨年は市民団体によるシンポジウムが開かれました。

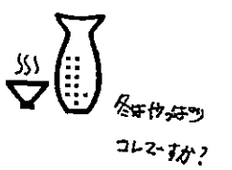
さまざまな視点からの討論で、非常に有意義でした。特にこのシンポジウムによって「オオタカ」の存在がマスコミに大きく取り上げられ、博物館の周辺施設の設計見直しが決定するなど、行政を動かすきっかけとなりました。

なお、この時の討論の内容は山田会長が原稿にしておられます。

また２月２日、県の稲澤教育長が恐竜研究会主催の「恐竜セミナー」で講演しました。

基調は「福井県を全国にアピールするため福井県立博物館を観光施設ではなく、アジアの恐竜研究機関と位置付け、レベルの高い学術研究の場にする。展示よりも、恐竜の生きていた時代の環境を感じるという部分に重点を置く。優秀な古生物学者を１０名程度集めて研究機能を充実させ、古環境はもちろん地球の将来の研究にも役立てたい」ということでした。また心配な面として「勝山市民がこの博物館をどんな目で見ているのか。さらには博物館で働く研究者たちを尊敬し、協力できるような接し方ができるか」を挙げていました。

（文責　佐々木）



１９９８年の活動計画

この内容は一部を除き総会で報告されました

生物班

・恒例となるか？　清滝川水棲生物による水質調査

水棲生物による清滝川の水質判定

８ポイントにて実施予定

1/15　雨天・吹雪以外は実施

・オアシス協会主催　大野カントリースクール

カントリースクールに講師として参加

１月　残念ながら不参加（橋本氏の活躍に期待）

参加者少ないため皆さんのご協力を

８月　フリーカリキュラム

羽田先生の下で修行中

みなさんご協力を

・オアシス協会主催　自然観察会

８月　自然観察会　講師として参加予定

羽田先生の下で修行中

パンフレットの叩き台作成

みなさんご協力を

・大野盆地の昆虫相解明へ向けて

大野盆地昆虫調査
大野盆地昆虫分布地図作成
大野盆地昆虫目録
　冊子にまとめる(2000年新予定)
］ユートピア紙上で発表

・福井県内の昆虫相解明へ向けて

珍種・貴重種の報告（県内）
年間採集記録の報告（県内）
］ユートピア紙上で発表

福井県環境メッシュにて整理

・武生市村国山の昆虫相解明へ向けて

丹南環境研究会活動

昨年の調査日数は僅か５日。今年はその倍を予定。

・中河地区の昆虫相解明へ向けて

鯖江市中河地区

中河地区公民館からの依頼

昨年の調査日数は僅か１日。今年はその倍を予定。

・県外の昆虫採集

昨年は社内旅行時に沖縄を調査。さて今年の社内旅行は何処に？

（文責：城地）

地質班

・大野盆地の成り立ち冊子の作成

重要ポイントにおける写真撮影

様式を決めて整理していけば、地質観察ポイントのデータベースとして使用可。

新しい観察ポイントの発掘

大野盆地の成り立ち冊子の作成

前田氏・山田会長により、既に骨格は完成している。今後、上記２点の作業を進め、内容の充実、ビジュアル化を図る。

・大野盆地地学体験ツアー

図書館友の会からの依頼

一昨年、昨年と続いており、今年も依頼がある可能性大。来年には「大野盆地の成り立ち」冊子を配布して、説明できるようにする。皆さんご協力を。

・大野カントリースクール

オアシス協会主催

伊藤先生の下で修行中

・夏休み自然観察会

オアシス協会主催

今年も伊月を予定。最近は産地の荒廃状況著しく、新しいフィールドの発掘が必要との声がある。水谷はどうかという意見があり、今後調査検討してみる価値あり。

・福井県およびその周辺の手取層群化石産地

山田会長著　上記題名の報告書の原稿完結

ユートピア紙上で連載・紹介しているが、バラバラにしておくのはもったいない。そこで、自然界のユートピア別冊として分冊・製本。関係者・希望者に配布予定。今後、資料の追加や文面改正が見込まれるため、Ver. 1.0とする。

・化石採集

和泉村　…ホタテが出たといわれる田茂谷奥の林道、大野市など。山田会長著「福井県およびその周辺の手取層群化石産地」を基に、会長の尋ねた地点を再び皆で歩くというのはどうでしょう。

（文責：城地）

天文班

天文班年間計画

其の一　今年の注目株は　獅子座流星雨

1998/11/17～18

約３３年ぶりの流星群に期待大！！

其の二　風景天体写真撮影！！（橋本個人案）

美しい夕焼け（夜景）と天体写真を！

ネッ　佐々木さん

其の三　オーロラが見たいツアー計画

OYYATO天文クラブでは参加者募集中です。

開催時期未定･･･今年は計画を練ろう！

また　連絡します。

97.12.4

県内地質学の権威 塚野氏（福井大名誉教授）が死去

地質学の分野で活躍した福井大名誉教授の塚野善蔵（つかの・ぜんぞう）氏＝写真＝が死去し、四日、葬儀が行われる。塚野氏は県地質図を作製したほか、水資源問題などに積極的に取り組んだ。

塚野氏は一日午前十一時四十分、胃がんのため鯖江市内の病院で死去した。八十九歳。石川県小松市出身。自宅は鯖江市御幸町二ノ五ノ一四。葬儀は四日午前十一時から、同市新横江一ノ八二〇、典礼会館で。喪主は長男達郎（たつお）氏。

昭和二十八年、福井大学芸学部教授に就任。学生部長、付属図書館長、教育学部長などを歴任し、同四十四年からは学長事務取扱を併任した。

研究分野では、同四十四年に県地質図を作製。県内唯一の全県地質図として、現在も研究資料や行政資料に広く活用されている。また、県内の地下水や温泉の調査研究、越前海岸国定公園の指定を国に働き掛けるなど、地質学をベースとした水資源問題や環境問題にも取り組んだ。

塚野氏と関係が深かった同大教育学部の服部勇教授は「先生はいつも、社会に役立ってこそ研究であると言っておられた。温厚な人柄だが、学問に対しては非常に厳しい人だった」と別れを悟しんでいた。

記録　ハラビロトンボの採集記録

1997年 6月7、8 日に、大野市塚原において昆虫を採集していたら、ハラビロトンボなるシオカラトンボに似たトンボを採集した。福井県自然環境保全調査研究会による「福井県昆虫目録」においても僅か２例、県立自然史博物館の長田先生を中心とするグループの採集記録においてももそう多くはなく（論文は全部見ていない）、今回の奥越での記録は大変貴重と判断されるのでここに報告する。

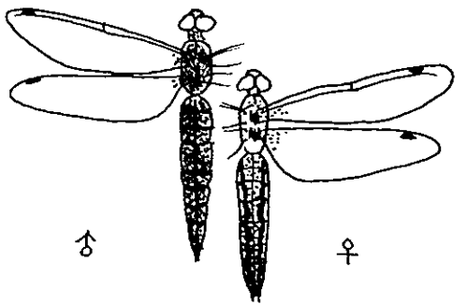
採集地：大野市　塚原

採集日：1997年６月７日　昼近く　　……１♀

　　および1997年６月８日　昼近く……１♂

天　候：当日は晴れのよい天気であった。

その他：当日はその他シオヤトンボ、シオカラトンボ（すべて♂）を捕獲した。このうちシオヤトンボはシーズンオフに近い記録である。



ハラビロトンボについては、他に武生と白鳥・滋賀県の標本を保管している。私にとって、塚原以外の唯一の福井県の記録である武生の産地については、1992年 6月に２♂、１♀を確認して、そのうち１♂を捕獲したのであるが、一週間後に再び同じ産地へ行ったが、もう確認できなかった。翌年も同時期に行ったが確認されなかったのを思い出す。

今回の大野盆地での発見も同じであり、初日に♀、翌日♂を採集してからは、後日調査してももう発見できなかった。突発的に見つかる種であり、塚原周辺での定着地は不明である。新天地を求めて夫婦で旅行していた所かもしれない。（文責：城地）

記録　クロコムラサキの採集記録

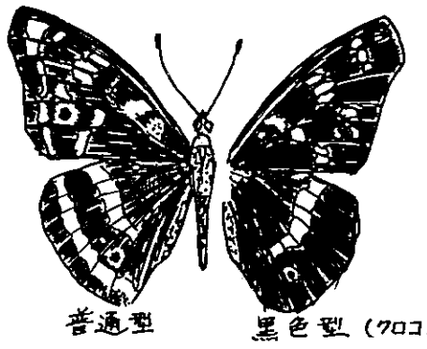
1997年６月22日に、大野市塚原～井ノ口においてクロコムラサキを採集した。本種は、コムラサキの遺伝型で、大野市においては決して珍しいというものでは無いが、大野盆地内での産地は限られると判断されるのでここに報告しておく。

採集地：大野市　塚原

採集日：1997年６月22日　昼近く

天　候：晴れ

その他：当日は テングチョウも沢山 舞っていた。



私が小学生の時、主たるフィールドの一つであった八千代橋付近の御給～五条方にかけての真名川河川敷には、本種が沢山いた。しかしながら、クロコムラサキは一匹も得たことはなかった。今回発見した産地は同じ真名川流域の比較的近い地域であり、どのようにクロコムラサキがこの地に住み着いていた（或いは住み着いた？）のか興味ある問題である。なお、八千代橋付近の真名川河川敷の産地では、1997年現在コムラサキは現在絶滅してしまっている。

また、私が小学生６年生の時、昆虫採集が一時的にブームとなった時があり（火をつけたのは私です）、夏休みの自由研究の標本が 5点ばかり出され、その中に本型がいたことを思い出す。採集したのは当時小学校４年生の中休の山崎君であったが、このとき初めて「クロコムラサキは大野にもいる」ことを知った。詳しい産地を記憶しておらず（聞いたのか聞かなかったのかも定かでない）、非常に残念に思う。

（文責：城地）

記録　オオフタモンウバタマコメツキの採集記録

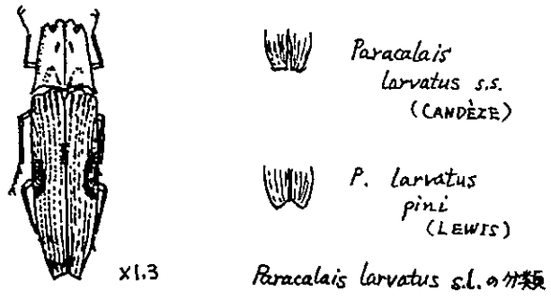
1997年 8月25日に、三方郡三方町能登野へ仕事で行く機会があった。仕事中、左手の人さし指がむずかゆく感じたので、なにげなく目をやると巨大なコメツキ虫がつかまっていた。現場ではウバタマコメツキだと思ったが、念のため持ち帰ることにした。家に帰り図鑑で調べて見ると、ウバタマコメツキ（属）には３種もあることが判り、その中のオオフタモンウバタマコメツキと同定された。しかも、福井県自然環境保全調査研究会による「福井県昆虫目録」に当たってみると、本種はリストアップされていない。「目録」発表後に記録されている可能性もあるが、個体数はそう多くないと判断されるのでここに報告しておく。

採集地：三方郡三方町能登野東部

採集日：1997年 8月25日　昼近く

天　候：前日まで雨が２日ばかり続いたが、当日は曇り時々晴れで、日がさしてくると、ジリジリと焼け付けるようであった。

その他：当日はノコギリクワガタ♀（捕獲）、アサギマダラ（目撃）、キアゲハ（目撃）



当地を含めた嶺南地域は、イノシシによる被害が深刻で、あちらこちらにイノシシ避けの電気柵が設けてあり、うかつに山歩きをすることができなくなっている。そういえば、日米親善の化石採集の時、伊勢でイニシシの暴れ回った跡を見たが、直径 2m位の円型の範囲で草がなぎ倒されたうえ地面に浅い穴のようなものがあけられ、イノシシの凄まじさを感じた。同じようなことを水田でもやられたら、農家はたまったものではなかろう。ついでに今庄では、深い山にはクマを捕まえるための罠がしかけてあり、うかつに歩けば、罠にかかって足を切断してしまうそうである。山歩きを商売にするものにとっては、受難な時代をむかえてきたといえる。

（文責：城地）

和　泉　村

１２．新油坂トンネル付近

トンネル工事の岩くずは、貝皿の頁岩のように黒々としているが、誰かが化石を採集したと言う話は聞かない。むろん、私も採集していない。

１３．九頭竜湖北岸

（１）田茂谷

川の中や川べりに黒い頁岩がかなり露出。だが、化石はほとんどでない。林道沿いでシジミ化石が少々採れた程度。

（２）林谷

ここで、研究会の城地氏が恐竜の足跡化石を発見した。恐竜化石が出る可能性という意味では、研究会では、私が一番早くここに注目したように思う。とにかく、初めてここを訪れただけで、動物・植物化石ともども、他の化石産地とは比べ物にならないほど、沢山しかも簡単に見付かったので、何かピンと来るものがあつた。研究会として調査する価値はあると思った。少なくとも私は、恐竜化石を見付けるつもりでこの調査を計画したので、見事見つかった時は、宝の山をあてたような気分とともに、自分のセンスの良さに内心酔いしれたものだ。でも、その後何度もこの谷を調査したり、他のポイントを調査しても、恐竜化石は出てこない。少ないチャンスをものにした城地氏の才能が非常にすぐれていたんだということがだんだんとわかってきた。事実、最初一人で来た時、恐竜化石の発見現場のあたりも歩き回っていたのも覚えているが、何も見付けられなかった。また、化石を持ち帰ってＦＢＣの山本氏に連絡したが、氏自身が見ても恐竜化石と断定できなかった。素人の能力では、この発見は無理だったのだ。城地氏は人より勉強もしている。よくわかりましたね、という県立博物館の東氏の問いに対して、城地氏が「博物館の足跡化石をよく見ていたので、ピンと来るものがありました」というような返事をしていたのを覚えている。

さて、この谷は林道が深くたくさん枝わかれして伸びているが北方向は、最終的に面谷流紋岩が埋め尽くしており、西方向は保存の悪い植物化石が少々出る程度である。ここは、保存のいい化石を採集したいときにはうってつけの場所である。私も都会からきた人や、知人の子供を喜ばせる時は、一路ここへ来ることにしている。だが、参考までに付け加えておくと、和泉村出身の会員明石氏によれば、この谷は「熊の巣」であるとのこと。幸運なことに私はまだ一度も出くわしていないが注意が必要。

（３）此の木谷（このきだに）

露頭には必ずといっていいほど植物化石が出る。メインの林道のドン詰りは、思わず庭石にしたくなるような緑色の美しい変成岩がゴロゴロしている。ここへ行くまでには化石のポイントは数箇所ある。メインの林道から最初に左へ折れる林道のドン詰りは植物化石帯に当たっている。林道を切り開いて時間が立っていないので、保存の良い大きな化石がたくさん採れた。

さて、私が二度目にここへきたとき、初めて熊に出会った。といっても、熊は谷の対岸５０ｍぐらいの所にいた。こちらをじっと見ている。初めカモシカかと思ったが、ずんぐりした体形からやはり熊だとわかった。一瞬凍り付いたような気分になった。その日は早々に退散した。私が熊に遭ったのは、後にも先にもこれ一度きりである。それから二週間後に、今度は城地氏がここへ来た。露頭の地質図を作りたかったので、この林道の入り口から歩いて上がったそうだ。地質図もできあがって、林道を少しおりると、道の真ん中に、上がってくるときはなかった何者かのウンコが湯気を立てていた。走って林道を下りたそうである。

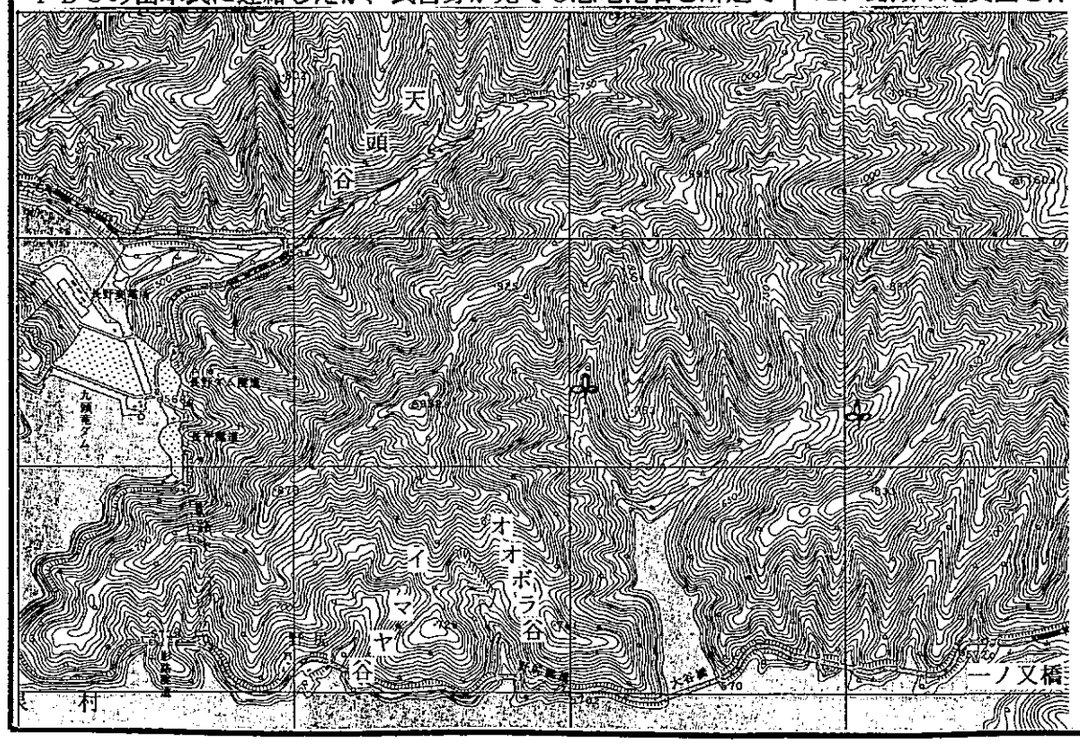
（４）大洞谷・イヤマ谷・アシ谷

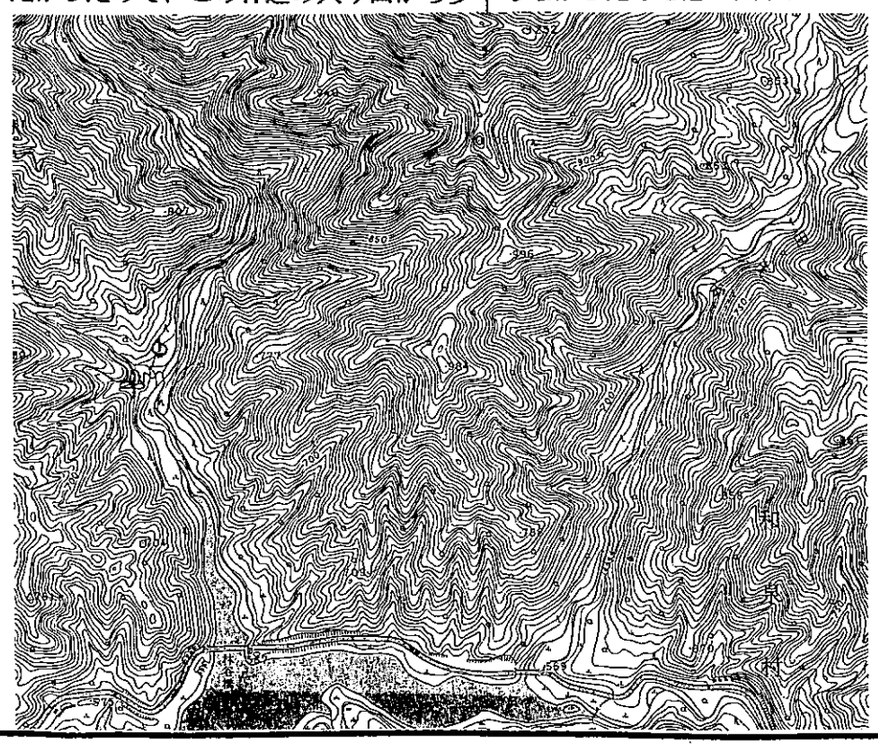
此の木谷から長野ダムまでの間にあり、地質図では古生代の化石が出るというふうに記されている。その一つイヤマ谷に入ってみた。渓流にサンゴの化石が幾つか採れた。なお、ここは車の通れる林道もなく、熊の一件があった直後でもあったので、これ以来行ってない。因みに、このあたりの地質図と実際の地形とは合っていない。地質図がダム湖のできる前のものだからである。

（５）天頭谷（あまがしらだに）

林道が奥の方で二つに分かれている。右側の林道もそれなりに植物化石は採れるが、左側の林道のドン詰りは保存のいい植物化石帯にぶつかっている。ここは、初めて行ったとき、野球ができるのでは感じたほど、林道脇が広々と整地してあったが、一年後に再び行ってみて驚いた。まるでその面影はなく草ボーボー、林道は土が流れて人一人が歩くのもやっとという状態である。化石採集のポイントでこのようにして忘れられていったものはたくさんあるんだなと思う。

なお、この林道沿いは、黒々とした頁岩の露頭が何箇所も出ているが、何か出そうで何も出ない。天頭川は、国道を横切ってダム湖に流れ込んでいるが、このあたりの川にも下りてみたが、結局何も見付からない。そう言えば、天頭谷の１００ｍほど長野ダム寄りに、五郎畑橋という小さな橋があり、ここの砂防ダム工事の時に、黒い頁岩の大きな露頭があったが、ここでも何も見付からなかったのを思い出す。





14. 石徹白川流域

（1）貝皿

ハンマーで砕かれた頁岩が累々としているが、アンモナイトはほとんど採れない。石徹白川の河原でも、最近はほとんど採れなくなっている。

（2）水谷（すいだに）

民家を越えて奥へと進んで行くと、平行して流れる渓流は黒い頁岩がずーっと続いている。これを根気よく割ればいいのだな、とは思うが、いまだ実行していない。一般に植物化石は、表面に化石の陰影がよく現れているので目標を絞りやすいが、アンモナイトの化石はこうはいかない。とにかく、割ってみないとわからない場合が多いので疲れる。

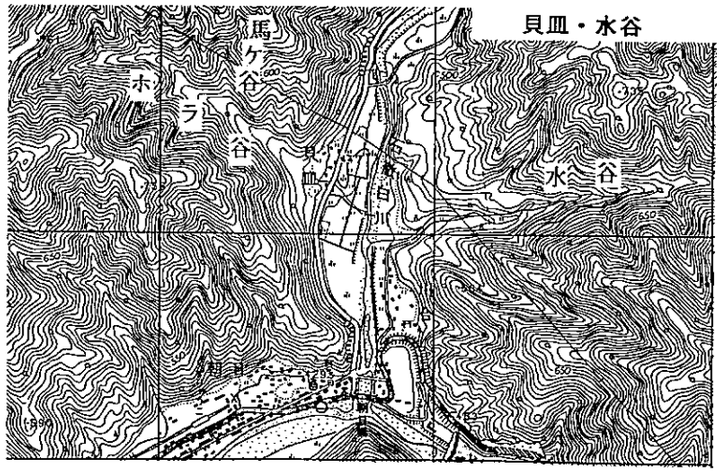
以前、このあたりで工事があり、オウム貝の化石が大量に出たらしいが、そんな話は現状では夢のようである。出る時には、徹底的に採っておくべきである。

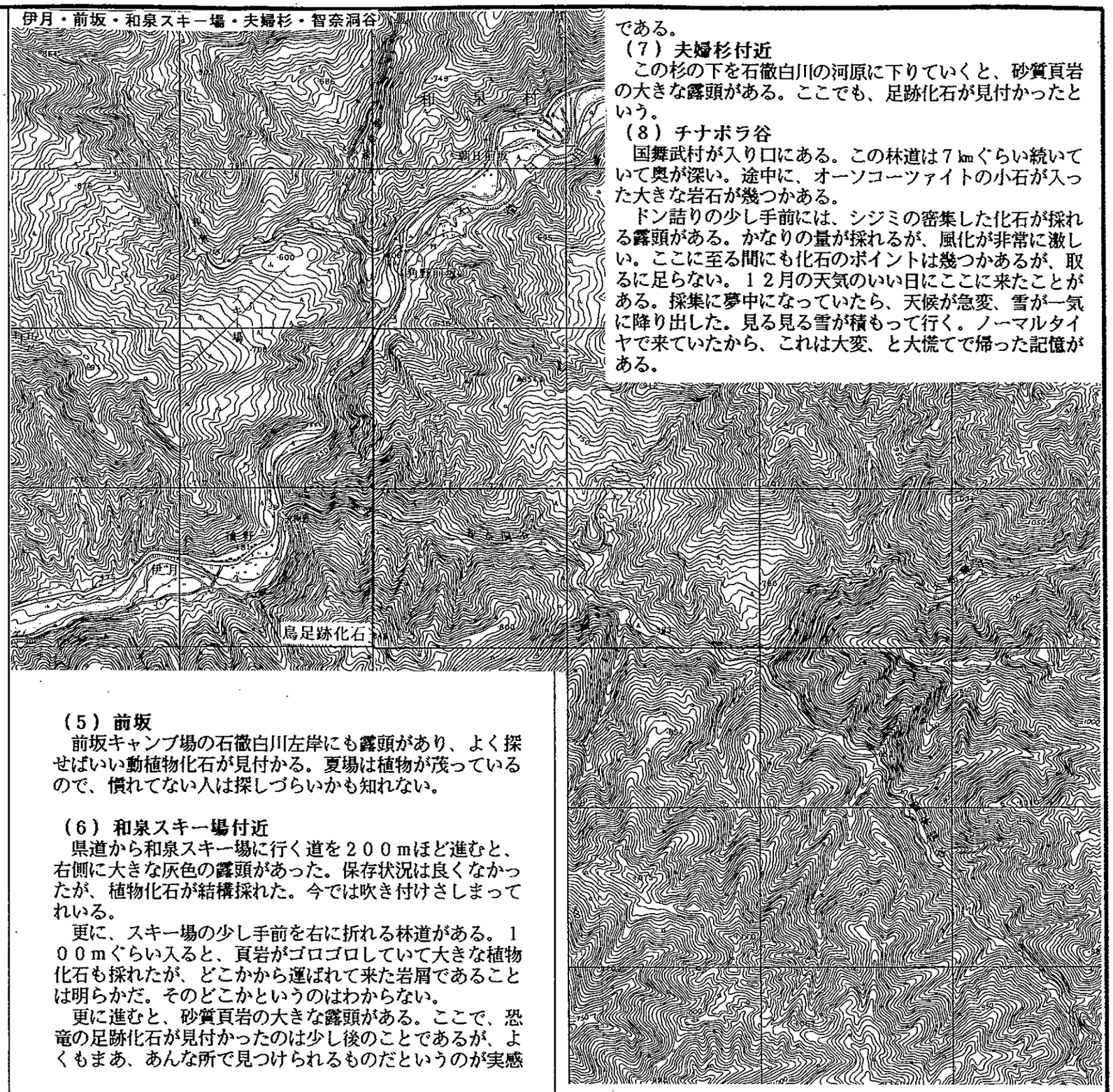
（3）伊月

「初めに」で話した通りである。伊月の露頭の向かって左に小さい谷がある。ここには、シジミ化石がかたまって出る。また、ここでは、巨大な　シジミの化石を一つ見付けた。しかし、こんな化石は、伊月の露頭で過去にいくらでも採れたとのことである。私は、またここでも「おくれてきた青年」だったのである。

（4）伊月の約500m上流

伊月から約５００ｍ上流に、石徹白川にかかる橋があり橋から上流約１００ｍの左岸に、崖崩れしている場所がある。辿り着くには、水量の多い川を渡る必要があるせいかあまり荒らされていない。かなり動植物の化石が採れる。前田氏がＦＢＣの山本氏と鳥の足跡化石を見付けたのはここである。





（5）前坂

前坂キャンプ場の石徹白川左岸にも露頭があり、よく探せばいい動植物化石が見付かる。夏場は植物が茂っているので、慣れてない人は探しづらいかも知れない。

（6）和泉スキー場付近

県道から和泉スキー場に行く道を２００ｍほど進むと、右側に大きな灰色の露頭があった。保存状況は良くなかったが、植物化石が結構採れた。今では吹き付けさしまってれいる。

更に、スキー場の少し手前を右に折れる林道がある。１００ｍぐらい入ると、頁岩がゴロゴロしていて大きな植物化石も採れたが、どこかから運ばれて来た岩屑であることは明らかだ。そのどこかというのはわからない。

更に進むと、砂質頁岩の大きな露頭がある。ここで、恐竜の足跡化石が見付かったのは少し後のことであるが、よくもまあ、あんな所で見つけられるものだというのが実感である。

（7）夫婦杉付近

この杉の下を石徹白川の河原に下りていくと、砂質頁岩の大きな露頭がある。ここでも、足跡化石が見付かったという。

（8）チナボラ谷

国舞武村が入り口にある。この林道は７㎞ぐらい続いていて奥が深い。途中に、オーソコーツァイトの小石が入った大きな岩石が幾つかある。

ドン詰りの少し手前には、シジミの密集した化石が採れる露頭がある。かなりの量が採れるが、風化が非常に激しい。ここに至る間にも化石のポイントは幾つかあるが、取るに足らない。１２月の天気のいい日にここに来たことがある。採集に夢中になっていたら、天候が急変、雪が一気に降り出した。見る見る雪が積もって行く。ノーマルタイヤで来ていたから、これは大変、と大慌てで帰った記憶がある。

（つづく）

活動報告　地研合宿報告（図書館友の会と合同）

今年度は事務局が個人的に忙しかったため、研究会恒例の“お盆の活動”ができませんでした。そこで、その代替活動として計画したのが今回の合宿です。図書館友の会も合流し（我々が合流した？）、飲めや歌えの楽しい時を過ごしました。

日　時：平成 9年 8月30日～ 8月31日

場　所：オアシス協会本部（旧六呂師小学校）

参加者：前田、山田、村田$_{\text{久子}}$、佐々木、中川、橋本、服部
城地、図書館友の会会員　約30名

当初聞いていた話では、「大野地球科学研究会が主体となりバーベキューパーティーを開き、図書館友の会は男ばかり12名程が参加し合流する」という内容であり、しめやかに行われるものだと想像していた。ところが、いざ会場へ到着して見ると、キャンプファイヤーを囲んだ大勢の人影が見え、盆踊りの音楽が流れているではないか。一瞬、日・場所を間違えたかと思ったら、服部さんの「ごくろうさまです」の声。後をついていくと、隅のほうで、研究会の面々がこじんまりとバーベキューを食べていた。「この賑わいは一体どうしたことか」との私の問に、山田会長・村田氏・佐々木氏から「橋本君が来ていないのでよくわからない」との返事が返ってきた。

土手塚さんに挨拶をしてから、辺りを見渡すと食料がたくさん用意してあった。聞いて見ると、図書館友の会の方々が昼のうちに作って下さった縄文食とのこと。石焼きクッキー、モチ、サンマ、スモーク卵など盛り沢山であった。城地家からは細君お手製の「しそおにぎり」を用意した。

図書館友の会には芸達者が多く、昔話、バイオリン、フォークソング、演歌、アンデス音楽と圧倒されっぱなしであった。それにひきかえ我が会は、星空散歩が唯一まともで、その他にはH_1・H_2による漫才やスイカ割りが行われた。また、青白い光の前にたたずむ怪しげな者（J）もいた。

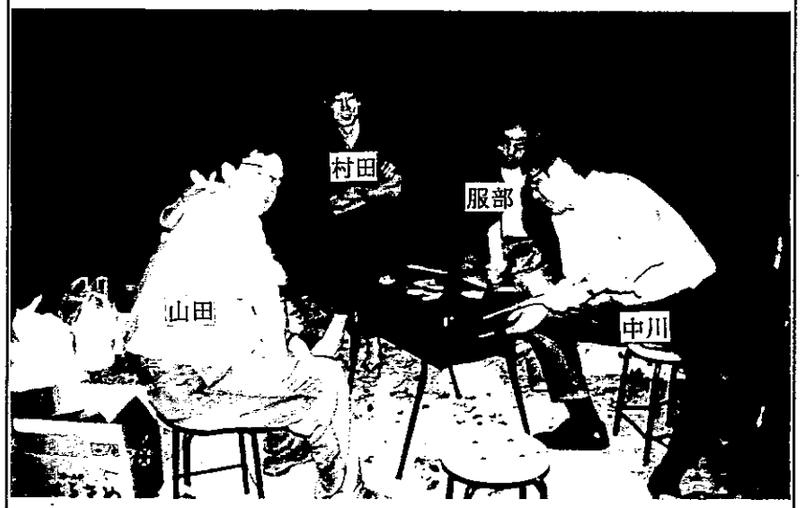
午前0:00に一旦宿舎に戻り、ウドンをご馳走になった。酒も入り、午前2:30頃まで話は盛り上がった。

その後、めいめいシュラフや車で寝たが、橋本氏はテントを持参しており、小学生の弟子を従えてグラウンドに野営した。また前田氏は、翌日(㈰)武生で仕事があるとのことであった。

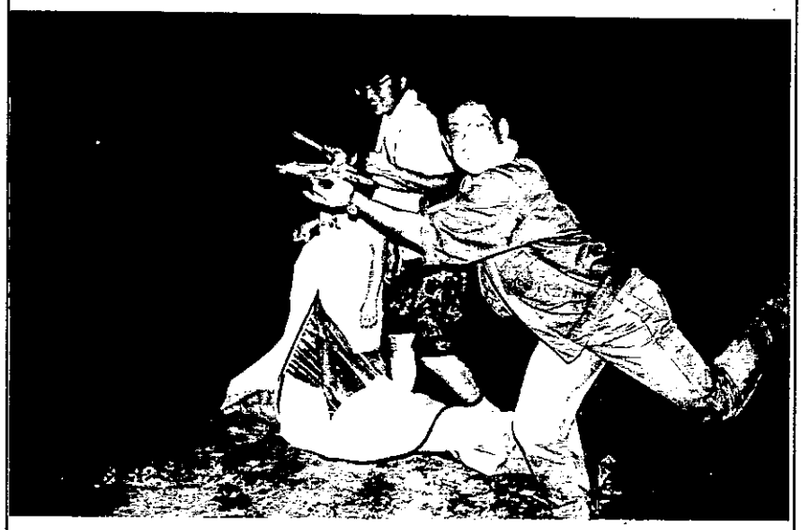
今会の合宿を計画された橋本氏、買い出しを担当された中川・服部両氏は大変ご苦労さまでした。終りになりましたが、施設を解放していただいたオアシス協会に感謝致します。

（文責：城地）

皆でダンスを踊ろう！



隅でバーベキューを食べる研究会の面々



グラウンドで野営する橋本氏（と前に立ちはだかる服部氏）

国立天文台見学ツアー記　　服部

平成9年11月8日（土），井部夫妻の誘いにのって，年に一度ある東京三鷹市の国立天文台一般公開を見学することにした。

国立天文台は，都心に近い周囲十数キロ程の小高い丘の上にあった。周りが森で囲まれており，都心の光が直接見えないので，およそ東京とは思えない雰囲気のある場所であった。

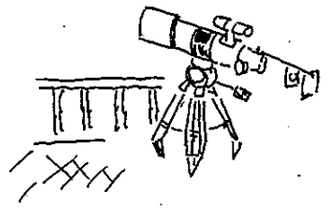
敷地に入った我々は，早速渡部潤一先生に会いに行ったが，残念ながら先生は当日の運営で忙しく，結局会うことはできなかった。代りに先生のご家族にお会いすることができたので，土産を手渡すことができた。

施設の中では様々な望遠鏡や測定装置が，敷地の中ところ狭しと並んでいた。

その中でも我々の心を捉えたのは，昭和2年（1927）から設置されている現役の屈折望遠鏡であった。このカール・ツァイス製の望遠鏡は，実に70年の間，悪天候や地震に耐え，そして太平洋戦争の惨禍にみまわれながらも現役を退くことなく使われ，この日も太陽の黒点を捉えていた。これだけ長い間の使用に堪えうる望遠鏡の耐久性も驚きだが，それよりも，この器械はそれだけの間天文学を愛する人々に代々受け継がれてきたのだ。赤道儀に「1957」の日付の入った落書を見て，先人の愛着と熱意を垣間見た気がした。

大野の望遠鏡を70年使うにはどうしたらよいか…

今回のツアーで大きな課題を与えられたような気がした。



橋本さん
太陽を見たもんだ!!

第10回　WINTERｶﾝﾄﾘｰｽｸｰﾙ in 大野　参加報告
1998年　1/5 ～ 1/7　　「橋本手帳より」

１月４日　午後 3:00　六呂師　「緊張と期待」
いよいよ　明日ここで、ｶﾝﾄﾘｰが始まると思うと、少しの楽しみとすごい緊張でいっぱいでした。というのも丁度１年前、ｶﾝﾄﾘｰの時「来年、チーフで面倒みてくれんけ？」（前田氏）と、軽く引き受けたのは良いのですが、近づくにつれ「本当に楽しんでもらえるのだろうか？いい勉強になるのだろうか？自分がやって良い仕事だったのだろうか？」とまあ～不安ばかりが目立ってきていつもの「なるようにナル！」楽天的なプラス思考も風前の灯でした。

１月５日　午前 8:25　自宅　　「ニュース」
月曜日、今日の準備中（本当は部屋の後片付けに近い）ＦＭラジオより流れたニュースは「今日から７日まで大野市南六呂師ではWINTERｶﾝﾄﾘｰｽｸｰﾙが開校されます・・・」お気に入りのアナウンサーの放送ですっかり舞い上がっていました。　天気は雪、絶好のｶﾝﾄﾘｰ日より

１月５日　午前10:15　JR大野　「再会の乗車」
早い子供で30分前（私と同じぐらい）遅い子供で10秒前・・・ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰも合流し今まで何度も見た常連の子供や、初めてで期待と不安の入り混った子供。何かを予感させる乗車でした。

１月５日　午前11:30　自然の森「部屋探し」
開校式も無事に終了し、（君が代をとばしてしまった反省！）ｶﾝﾄﾘｰの一番の醍醐味！「部屋探し」の時間（これは、子供達が自分で好きなｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰの部屋を探して、ｸﾞﾙｰﾌﾟをつくるという時間）がやってきました。最初からお目当てのｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰを探す子供や、友達同士で一緒に行動したい子供の思惑などで、やはりすんなりとは決まりませんでした。これがｶﾝﾄﾘｰなのです！

１月５日　午後 1:30　工作室　「クラフト」
実はこの時間、雪があったら「スノーモービル体験」の企画だったのですが、雪不足のため中止！そこで私の企画した「クラフト　弓つくり体験」を行いました。夏のｶﾝﾄﾘｰ時に結構子供にウケていたので、大丈夫かなと思っていたのですが、本当はこれが一番の心配の種でした。材料は 杉枝 タコひも ｶﾔ（矢）で、うっすらと積もった雪の中、子供達は私の心配をよそに、元気に材料を探しに、林の中へ散っていきました。刃物を持たせるのもｶﾝﾄﾘｰ流。結構うまい子や、かなり危なっかしい子供もいました。ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ も挑戦！

１月５日 午後 9:30　ﾐｰﾃﾝｸﾞ　「ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ」
ここで今回のｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰを紹介したいと思います。
ゴン　（道腰君）　もう常連ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　参加回数は最多なのである。低学年の６人を含む独特のｸﾞﾙｰﾌﾟ
翔　（吉田君）　高校１年生　最年少ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　ﾁｬﾚﾝｼﾞ精神、好奇心旺盛な　男女混合ｸﾞﾙｰﾌﾟ
ドアラ（ﾄﾞｱﾗさん）福井大学の留学生（中国内モンゴル出身）やる気満々女性　良い体験をしてほしい。
ｴﾝｹﾙ　（波岡さん）大学生 子供との接し方、考え方は尊敬にも値する！ﾌﾟﾚｼﾞｬｰﾏｽﾀｰなスゴイ女性

最後に、私なんですが結局３人の子供の面倒を見る（一人で居るのは寂しいので）ことになり、ﾁｰﾌﾘｰﾀﾞｰ兼ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰとWINTERｶﾝﾄﾘｰでないと出来ない体験をしていました。

（反省点ならび問題点）
１）　細かい時間の連絡がうまく行かない

２）　水筒の準備をしてない子供がいて、喉の渇きを訴えてきた。（準備項目に水筒は無）

３）　クラフト時に危うく目に矢が当たる所だった。監視が難しく、子供達の危険認知が低い。

１月６日　午前 9:00　自然の家「かんじき？」
昨夜から降り続いた雪で、かなり冬らしくなった２日目、午前3:00ごろ起床したｸﾞﾙｰﾌﾟがあるかと思えば、7:00までぐっすりと眠っている所（私のｸﾞﾙｰﾌﾟ）もあり、いよいよﾌﾘｰｶﾘｷｭﾗﾑ開始です。
先生方の自己ＰＲのあと野外へ。（私は羽田先生の班に入りました　ｴﾝｹﾙさんも一緒ﾗｯｷｰ）子供達は、かんじき歩行体験、もっと雪が積もっていれば効果が有るのですが、かえって大変そうでした。（これも経験）かんじきが外れてしまう子もいて、見ている分にはいい感じでした。

１月６日　午前 9:00　野外　　「前田さん」
実は今回、前田さん（雪のおじさん）は、WINTERｶﾝﾄﾘｰでは、初めての講師（前田さん談）で、色々考えて来たみたいです。雪や土の温度、どこが一番暖かい所か？など、かなり興味ぶかいｶﾘｷｭﾗﾑだったと思います。

１月６日　午後 0:30　保護ｾﾝﾀｰ「イベント」
丁度、自然保護ｾﾝﾀｰでは県内の野鳥（動物）の展示が開催されていました。

１月６日　午後 2:45　山林　　「雪山気分」
ｵｱｼｽ本部に普通に戻るのでは、ｶﾝﾄﾘｰ流では無いので、山林を歩くことになりました。時折後方や上からの雪玉のプレゼント？にもうモテモテでした。

１月６日　午後 3:00　記念写真「計画が・・・」
昨年は、自然の家で天文台をﾊﾞｯｸに記念写真を撮影したのですが、やはり本部が無いと「寂しい」との声、綺麗なｸﾞﾗｳﾝﾄﾞの雪上で撮影の計画でしたが子供達はお構いなしに、足跡を大量に残して行きました。これもｶﾝﾄﾘｰ流？

１月６日　午後 5:00　講堂　　「設営」
　昨日とは全く違う寝場所に、子供達はかなり困惑した様子でしたが、徐々に楽しみに変わって来たみたいです それは、テント設営を講堂の中で行ったワケです。自分たちの寝場所を自分で作るなんて初めての経験だったのかもしれません。

１月６日　午後 6:30　講堂　　「餅！」
　餅つき大会！子供達は餅つきをしたくてたまらない様子で、私の餅つきを見つめていました。いざ自分たちが餅をつき始めると、杵の重さでフラフラになりながらもいい音を聞かせてくれました。ただ餅を食べ始めると、子供達からの人気は急降下！（やっぱりお腹がすいてたんですね）そこで、昔とった杵柄と先生方、ﾄﾞｱﾗさんも果敢に挑戦！翔はまだ経験不足でかなり難しいつき方をしいました。ｴﾝｹﾙさんは年末は餅屋でｱﾙﾊﾞｲﾄをしてたとか、手慣れた手つきで餅をさばいていました。

１月６日　午後 8:20　講堂　　「灯火」
　私個人的に一番印象に残っているのがこの時です。
「縄文時代の火起こしを体験」昨年の材料不足の失敗を反省し、今回は麻（麻縄）水苔（洋蘭用）を用意！各ｸﾞﾙｰﾌﾟに「火起こし器」を配り作業開始！見々うちに焦げ臭い香りと、煙が充満してきましたが、火種が出来ても火が起きません！私のｸﾞﾙｰﾌﾟ（ﾄﾞｱﾗさんと合同）では苦労の挙げ句（息を吹きかける時、煙が目にしみる）やっとのおもいで点火に成功！　ロウソクの灯火がまぶしかった。（私自身初めての成功でした）
　結局、点火成功は私とｴﾝｹﾙさんのｸﾞﾙｰﾌﾟでした。中でも、翔ｸﾞﾙｰﾌﾟはかなりヤリこんでいましたが、時間切れ「がんばれ翔！」

１月６日　午後 9:00　講堂　　「快適な睡眠のコツ」
　ｼｭﾗﾌの説明を翔が自ら買って出、子供達に快適な睡眠を伝授？してくれました（感心感心）
そして、寝場所も子供達で決め手もらうという、ｶﾝﾄﾘｰ流のやり方。３基のテントと囲炉裏の部屋に分かれ、最後の夜もいよいよ深まりつつあります。（私は囲炉裏の部屋でｴﾝｹﾙｸﾞﾙｰﾌﾟの女の子に大歓迎（大ひんしゅく）をうけて床につきました。

１月７日　午前 7:00　囲炉裏　「紳士」
　３日目最終日、囲炉裏の部屋では私のｸﾞﾙｰﾌﾟの子供達が戸の前で待っています。「着替えらしいですよ。」と昨日も同じ光景を見ましたが、年頃の女の子の着替えでは部屋を出ていくなんてもうりっぱな紳士ですね。

１月７日　午前10:00　ゲレンデ　「ソリで対決？」
　ｽｷｰ体験ですが、残念ながらﾘﾌﾄは動かず！自分達の足で登ることになりました。最初の１回は元気だったのですが、回数が増えるにつれだいぶ疲れた様子、それじゃということでソリを持ち出し、遊びはじめました。そこで私も仲間に加えてもらい、競争と相成りました。残念ながら３連敗（^^;。　罰ゲームまで用意されもう大変（本人は結構喜んでいたらしい？）盛り上がりを見せてました。そのころ私のｸﾞﾙｰﾌﾟの子供達は、「モチョ１号」と言う雪像を作ってくてました。ｶｯｺｲｲ!!

１月７日　午前11:30　ﾊｲﾗﾝﾄﾞ　「ハンバーグ」
　これが、みんなと最後の食事かと思うとかなり寂しかったです。しかしそんなコトは子供達は見せず大喜びでハンバーグを食べていました。ゴンは低学年の面倒で大変みたいです。「芸人志願者」と言う子はｴﾝｹﾙさんに洒落を言って笑わせています（うらやましい）翔は写真を撮るので必死でした。

１月７日　午後12:30　ﾊｲﾗﾝﾄﾞ　「代表者」
　ｶﾝﾄﾘｰもいよいよ終了式です。終了証書受け取り代表を「芸人志願者」の子になってもらい、元気に返事をした時、彼が一つ大きくなったかなと思い、ジーンと感動したのを憶えています。

１月７日　午後 3:30　ＪＲ大野　「See You Agein」
　昨日の計画とおりに、各交通機関に分かれたｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰに引率され子供達は帰路につきました。
　又、会う日まで　Ｓｅｅ　Ｙｏｕ　Ａｇｉｎ
　　Ｂｙｅ　Ｂｙｅ

２月19日　午前 0:00　会議室　「あとがき」
　今回は、初めてﾁｰﾌﾘｰﾀﾞｰとなってWINTEｶﾝﾄﾘｰｽｸｰﾙに参加できたことを感謝いたします。
協力していただいた　スタッフ　先生方、参加してくれた子供達、本当にありがとうございました。
これからも　ますます頑張って参加し、人生において大切な経験を得て行きたいとおもいます。

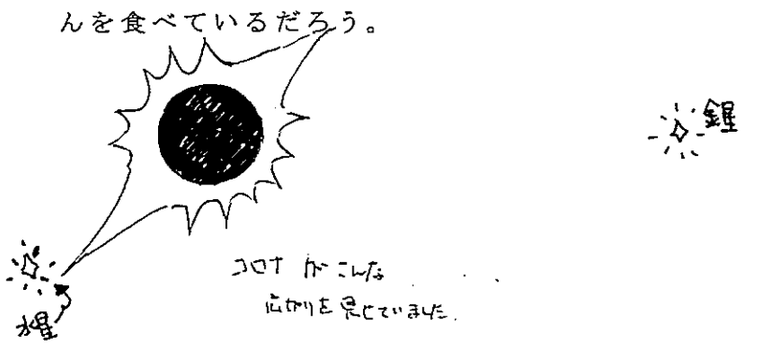
（1998/02/19　文責　橋本）

タイ日食観測道中記

連載　第4回

９時１９分、第１接触で、いよいよ太陽が欠け始める。「あ～、本当に欠けるんやなー」と、Ｓ氏がのんびり呟く。この穏やかな雰囲気が、１時間半後には修羅場と化すのを、誰が想像できたであろうか。３分の１ほど欠けてくると、あたりの様子に別段変わりは無いのに、先程の焼け付くような暑さはなくなっている。しらない間に涼しくなっていた、といった感じだ。陽気な音楽を鳴らしながら、アイスクリーム屋が我々のうしろにやってきた。現地の人が群がってくるが、「水と氷は厳禁」の大野隊は、我慢して無視する。

１０時３０分を過ぎると、異様な雰囲気になってくるのが感じられる。双眼鏡を通して暑さよけの傘に太陽を写し、「にこちゃんマークだ」と他愛なく騒いでいた面々も、そわそわとしてきた。はっきりと涼しくなったと感じられる。薄暗くなってきているのだが、夕暮れのそれとはまったく違い、しいていえば、濃い目のサングラスをかけて見るような感じだ。夕方には影は長くなるものだが、今は短いままである。太陽の反対側を見ると、さっきまで明るくまっ青だった空が、群青色に変わっている。身体が何かに包み込まれるようで、徐々に闇が降りてくるような不気味さだ。天の岩戸の神話に見るように、太古の人が恐れ、忌嫌った思いがよく分かる。実際恐いと感じるし、又恐いもの見たさで居ても立ってもいられない、精神状態がおかしくなるようだ。おかしくなったＨ氏が突然「川崎会長、今頃何してるやろなー」と口走った。参加できなかった会長に、この雰囲気を味わってもらいたい、そんな思いが彼の胸を横切ったに違いない。日本ではもう昼過ぎの時間だから、会長はごはんを食べているだろう。



いよいよ太陽は糸のように細くなる。１０時４４分カメラのストロボが光り、２分後には街路灯が自動点灯する。それだけもうあたりは暗くなっており、第２接触が近づいてきた。１０時４６分４２秒、ダイヤモンドリングが現れ、どよめきと歓声が起こる。何と言う美しさ！！一瞬のまたたきの後、太陽は完全に姿を隠し、コロナが上下にスーッとのびる。「コロナーコロナー、すごい～」と、狂ったようなＳ氏の絶叫が響く。黒い太陽をはさんで金星と水星がまたたき、上空は暗いのに、地平線は３６０度夕焼けのように赤く染まっている。影は完全に消滅した。手元は見えるものの細かい字が読める状態ではなく、夜でも夕暮れでもない、誠に不思議な闇の世界である。遠くで花火が上がった。あそこでも、興奮した人々が歓声を上げているのだろう。約１分３０秒後、茫然自失の状態が長い間続いたような、またたくうちに時が過ぎ去ったような、訳の分からないままに第３接触のダイヤモンドリングが見えた。今まで生きてきて、一番美しいものを見たと言っても過言ではない。最後の瞬間を惜しむようなため息があちらこちらから聞こえ、会場は大きな拍手に包まれる。間もなく太陽が顔を見せて、あたりに明るさが戻ってきた。

ハイレベルの興奮状態で「おめでとう、おめでとう」と握手を取り交わしまずは観測の成功を祝して、服部氏の餞別のビールで乾杯することにした。ここで、ビールが行き渡らないうちに栓を開けて、乾杯の前に飲んでしまったふとどきものが一人いたが、尋常な精神状態ではなかったのだろうから、名誉のために名は伏せておこう。

空には何事もなかったように、太陽が輝いている。観測者の中には、最後の一瞬までカメラに収めるため、またぞろ暑くなってきたグラウンドで頑張っている人もいる。むろんここでも、大野隊の中にはそんな根性のある奴はおらず、ようやく我を取り戻して、昼食の弁当を食べに校舎１階の吹き抜けへと移動した。弁当は、ケチャップライスに目玉焼、フライドチキンにハム・ソーセージと、絶対的に野菜不足である。興奮が冷めやらぬのと脂っこいのとで、みな食が進まないようだが、一人朝食をとりそこねたＨ氏のみ、きれいにたいらげていた。

Ｓ氏のビデオを再生してみると見事に映しだされており、感動再現とばかり、ダイヤモンドリングとコロナの話で花が咲いた。同席された大阪の近藤氏の話では、これで４回目の観測になるが、今回が最高だとのことである。あらためて、初回にしてラッキーだったと、神・仏・キリスト様からイスラムの神に至るまで、感謝したい気持ちになった。

さてここで、皆既日食中の各氏の言動を再現してみよう。

◎Ｓ氏……自分が人間であることを忘れ、狼男と化した彼は、ただ黒い太陽に向かい吼え続けた。

◎Ｉ氏……「ﾄﾚﾋﾞｱﾝ・ﾄﾚﾋﾞｱﾝ・ﾄﾚﾋﾞｱﾝ……」とキザな言葉を呟いていた。核実験で、フランスをボロ糞にけなしていたくせに、二重人格者である。

◎Ｙ氏……さすがに地研の会長である。沈着冷静にあたりの状況を録音していた。ただし、声は少々上ずっていたが。

◎Ｈ氏……怪しげな雰囲気に背筋が寒くなり、鳥肌を立てた彼だが、ニッポン男子の心意気を忘れず、バンザイ三唱した。

◎Ｋ氏……いつもクールなＫ氏。胸の内は黙して語らずだが、その動揺は、写真が全てボツになったことで明らかである。

◎Ｉ氏夫人…荷物番を命ぜられた彼女は、ボーッと眺めていが、何の脈絡もなく頭に言葉が浮かんだ。「悪魔が来たりて笛を吹く」

ところで今回の観測地となった学校は、ナコンサワン特別教育学校といい、ちえ遅れと聴覚障害児を対象としている養護学校である。授業料、食費以外は寄付でまかなわれているそうで、日本からの青年海外協力隊の女の子が、協力を呼び掛けて回っている。テレビのドキュメンタリーでよく見るが、こんなところで、日本の若者が頑張っている姿にお目にかかるとは思いもしなかった。感激した一行の中には、彼女たちを激励し、何がしかを寄付してきた者がたくさんいた。もちろん、大野隊も同様である。

全員で記念写真を撮ったあと、スコタイへ戻るため、朝来た道を再び３時間ひた走りに走る。気がつかなかった者は幸いだが、１号車の運転手は本当にすごいのだ。観光バスの運転手は、人命を預かっているのだから自ずと運転は慎重になる筈だが、彼の場合は、１秒でも早く目的地に到着するのが己の使命と心得ているようだ。前の車を蹴散らし、対向車が来れば、そこのけそこのけとばかり猛然と突っきる。相手がよけそこねて路肩へ突っ込む場面もある、まるでカーチェイスの世界だ。

とりあえず無事にスコタイに着き、遺跡を見学する。スコタイとは「幸福な夜明け」の意味であり、１２３８年に生まれた最初のタイ王国の跡である。ここは、ユネスコも保存に協力している広大な歴史公園で、とても１時間そこそこで見て回られるようなものではない。限られた時間で、ほんの一部分噛って見ることになるが、この旅行のメインテーマは「皆既日食」なのであるから、それが成功した今贅沢なことは言っていられない。

全体として、アユタヤと同じような造りの塔や仏像が見られる。今年の１月にここを訪れた作家の水上勉氏は、骨柱のような石積みと表現しているが、さすが文学者だけに、言い得て妙である。丸い柱だけが残って、まるでアテネの神殿跡のようなところもある。柱は一見石造りのように見えるが、煉瓦のようなものの外側を漆喰でコーテングしてある。こんなに高い柱の天辺までどんな足場を組んで塗固めたのか、想像するのもおもしろい。タイの電信柱は、すべてお手軽な四角いコンクリート造りだが、こちらの仕事の丁寧さは対照的だ。ここは王朝跡なのだからあたりまえなのだが。

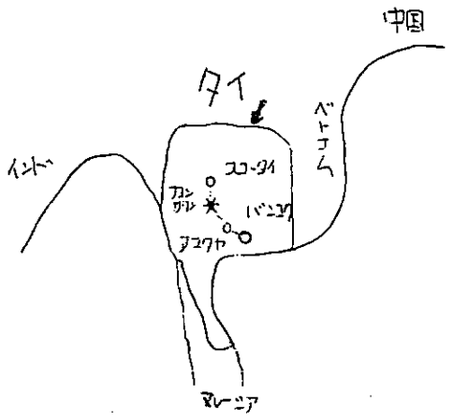
大きな菩提樹が一本ポツンと立っており、根元は聖者が瞑想できるように、一段高く土が盛り固められている。お釈迦様のように悟りが開かれるか、瞑想にふけってみたいと言う者もいるが、オウムの幹部が輪になって座っている風景を思い出せば、やめた方が賢明である。タイの人たちも、一連の事件についてはよく知っているので、ひんしゅくを買う恐れがあるからだ。

入り口まで戻ると、はるか対面に「ラムカムヘン大王記念像」が見えるが、とても見に行っている時間はない。まあ新しいものだからと、諦めざるを得ない。

陽が西に傾いた頃、ホテルに着いた。赤道に近いタイでは、朝日は６時に昇り、夕日は６時に沈む。しかも、黄昏時のあのしみじみとした風情は味わえない。あっという間に太陽は姿を消してしまい、あっけらかんとしたものだ。昨夜到着したときは気がつかなかったが、ホテルの前にもあの氏神様が設えてある。こちらの方は一般民家のものと違い、巨大で立派なもので、白い像や馬のお供まで付いている。ホテルの前で一同記念写真を撮り、夕食までしばし休憩を取ることにした。「今夜のビールはおいしいぞ」と、飲めないＨ氏以外は皆思っていたに違いない。

思っていたとおり、今夜のビールはうまかった。朝・昼と弁当にあぐねていたＩ氏は、てんこもりの二皿をたいらげてしまった。メニューは昨夜とたいして変わりはないが、ホテルの好意か精進揚が付いていて、皆を感激させたのだ。ピーマンとたまねぎと、青菜がからりと揚がって、久しぶりに日本の味を楽しんだ。いや、昨夜もそうめんがあった……。Ｓ氏もＫ氏も食欲は旺盛だが、Ｙ氏とＨ氏はどうも調子がよくないみたいだ。正露丸を飲んでおいた方がいいだろう。しかし、今夜は本当に盛り上がった。皆既日食の話に花が咲く。観測が成功して大層気分がいいし、ホッとしたところもあるのだ。

夕食後ホテルの店で買物をするが、めぼしいものがないので、風呂に入ったＩ氏夫人を除いて、外へ出てみる事にした。通りも店も薄暗いが、店の人は明るく、品物もホテルの３分の１くらいの値段で、結構おもしろいものがある。蚊が群がるのには閉口するが、言葉の通じない相手とのやり取りを楽しみながら、木彫りの飾りものなど、両手一杯にご帰還だ。意気揚々と戻ったＩ氏をみて、夫人はわが目を疑った。夫人なら決して手にしないだろう、色ケバの木彫りのチューリップが一束、新聞紙にくるんである。とがめるようなまなざしに、Ｉ氏が「Ｙ氏が買ったので俺も買った」と弁解すると、それならいいものだろうと夫人は合点した。「Ｉ氏が買えばちんけなもの、Ｙ氏が買えば値打ちもの。」と思われるＹ氏の人徳に、Ｉ氏はきっと嫉妬したに違いない。Ｈ氏もなかなかもの上手だ。タイらしい民芸品を次々と出して来る。お互いに買ってきた土産物を披露し、ワイワイ騒ぐうちに、スコタイの夜は更けていった。テレビでは、日本シリーズが流れている。



◎１０月２５日（水）

今朝も６時出発だ。バンコクまで６時間はかかるので早朝出発となるが、朝に弱いＨ氏には連日早起きは大変なことである。朝食抜きになるであろうＨ氏のために、パンを数切失敬して来た。外へ出ると、若い女性がホテルの前の氏神様を、磨くように丁寧に掃除している。毎朝の事だろうが、心を込めて磨いている気持ちが伝わって来るようだ。

いつもバラバラに座っている大野隊だが、今朝は珍しくバスの最前列にかたまって陣取った。意識した訳ではないのだが、やがて始まった自己紹介の段になって、トップバッターで６人そろって挨拶できる結果となる。

まず晴れ男を自認するＨ氏は、今回の観測の成功は偏に自分のお陰であると、豪語してはばからない。Ｋ氏はいままで悶々と抱き続けていた「激辛料理が食べたい」という思いを告白し、Ｉ氏は、福井県の部分日食である自分（現実は金環食の一歩手前であることを、自覚していない）と、オヤット天文クラブの宣伝に余念がない。Ｉ氏夫人は日食を見るまで、単なる海外旅行の浮かれ気分であった自分に、猿でもできる反省をした。Ｓ氏といえば、一人の脱落者もなくツアーに参加できた喜びと、初めてカノープスを見られたうれしさを真面目にスピーチし、コロナを見て狂ったことなどおくびにも出さない。Ｙ氏は、市長が聞けば涙を流して喜ぶほど、いかに大野市の地下水はすばらしいものであるかを披露した。

全員の自己紹介を聞いていると、今回初めての観測者は、およそ３分の１ほどしかいない。２～３回から多い人で６回も、世界各地を回っているようだ。年配のひとり旅も多い。足の悪い老婦人で、どう見ても連れがいそうになく、何んとなく気にかかる人がいた。天文愛好者だった亡夫を偲ぶ巡礼の旅、といった風情で、数十年後のＩ氏夫人の姿と重なる。子連れもいる。学校教育だけが勉強ではない、こうした経験も社会勉強になると、学校を休ませてきているのだ。世の教育ママに聞かせてやりたい、胸のすくような言葉である。

同じ景色の６時間のバスの旅というのは、本当に退屈なものだが、自己紹介の場を持ったことで、雰囲気がなごやかになるものだ。オヤット天文台のＰＲ写真を「５枚シェンエンでお分けします」と言ったところ、トイレ休憩のあと、本当に求めに来た人もいる。もちろん無料進呈して、ぜひおいで下さいと愛敬を振りまいておく。トイレは相変わらずだが、バンコクに近づくに従い、ガソリンスタンドの規模は段々大きくなり小綺麗になってくるのがわかる。最後の休憩地では、大きな食堂兼店屋が併設していた。店の前には魚や肉が干されており、なにやら油で揚げている。店先には地元のお菓子や、飲料水、食堂で出される料理の材料などが並んでいて、見ているだけでも面白い。「蛙の開き」が、ケースの中にてんこもりにある。ガイドブックに載っていた、串焼きにするのだろうか。缶コーヒーが一本１０バーツ、日本円で約４０円だからやはり物価は安い。

温暖化で野鳥にも異変

早まる産卵／生息数が激減／越冬地 北へ

予測と一致 「報告相次ぐ」

昨年の温暖化防止京都会議を機に、地球温暖化が野鳥などの生物に与える影響についての報告が国内外で相次いで行われた。自然界で実際に起きているさまざまな変化のデータが集まるにつれ、関係者は「コンピューターモデルなどによる気候変動の結果の予測に、現実が一致してきた」との見方を強め、調査継続の必要性を訴えている。

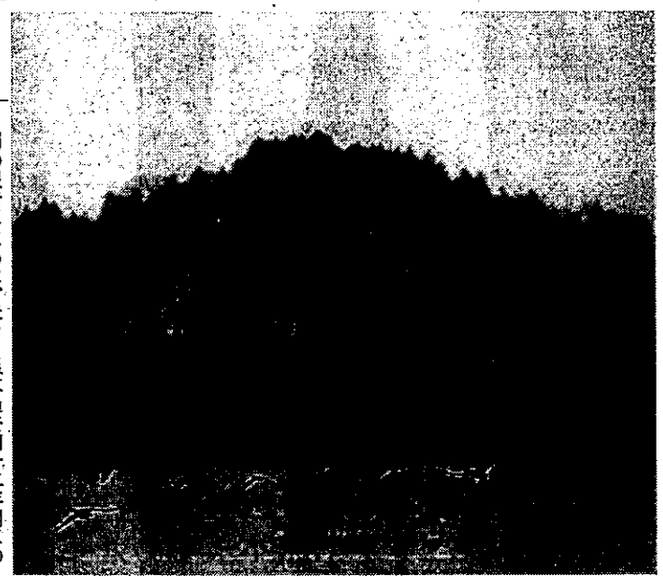
▽産卵8・8日早く

一九二二年に設立され、約九十カ国の野鳥保護団体が加盟する国際組織「バードライフ・インターナショナル」と世界自然保護基金（WWF）は昨年九月、米コロラド州で「気候変動が動植物に与える影響」と題した研究会を開いた。

七一年から英国内の鳥類を調査している研究者は、アトリ科のズアオアトリなど六十五種中二十種で、産卵日が平均八・八日早まっているという結果を報告した。

産卵日は英国中部の平均気温の上昇に伴って早まる傾向にあった。特に長年のデータが蓄積されているズアオアトリとヒタキ科のズグロムシクイなどは一九三九年以降、平均気温の上昇、下降と産卵日の早まり、遅れが完全に一致していた。

▽ミズナギドリ激減



越冬地が北上したマガン＝宮城県（伊藤啓さん提供）

別の報告によると、米カリフォルニア州沖では水鳥の一種、ハイイロミズナギドリの数が八七年から九四年までの八年間に九〇％も激減した。この付近の海水温は過去四十二年間に〇・八度上昇、動物プランクトンの密度も二十年で七〇％減っている。

研究会に参加した英国野鳥の会のバーナビー・ブリックスさんは「直接的な因果関係は立証できないが、海水温の上昇でえさのプランクトンが減少し、ミズナギドリの生息分布が変化したと考えられる」と話す。

科学

▽北海道でも越冬

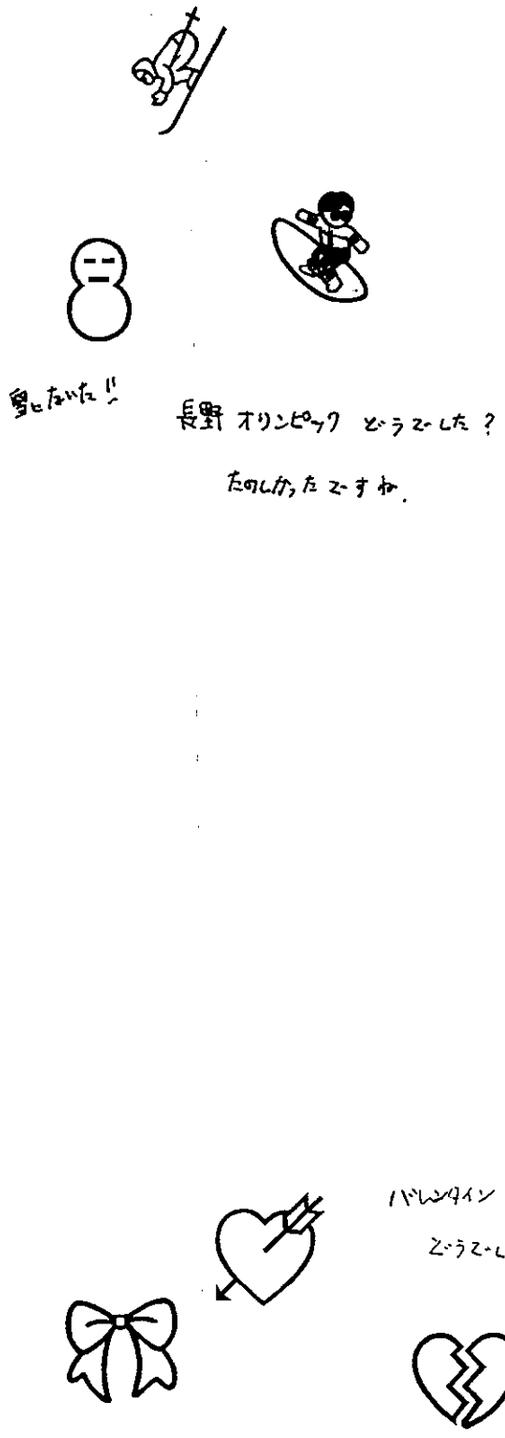
日本国内では、東京で昨年十一月二十六日に開かれた日本野鳥の会と英国野鳥の会の共催による討論会で、日本雁（がん）を保護する会（呉地正行会長）の発表が注目された。

同会はシベリア北東部で繁殖し、越冬で日本に飛来する水鳥のマガンに関する調査を七一年から実施しているが、従来は宮城県北部の伊豆沼とされてきた越冬地の北限が、九〇年代に入って北に移動。約百七十キロ離れ、これまで中継地だった秋田県・小友沼で越冬するマガンが現れた。

生息地となる沼や川などの水面が、凍ったままにならないのが越冬地の条件。「七〇、八〇年代は氷点下一―二度だった小友沼の一、二月の平均気温が、九〇年を過ぎるとわずかだがプラスに転じ、かつての伊豆沼のようになった」（呉地会長）という。

さらに、九五年冬からは北海道・日高地方の静内町でも越冬するマガンが見つかり、九六―九七年にかけては約四十羽の群れが確認された。

マガンは、飛来する数自体が九〇年代に入って八〇年代の五倍以上に増加しており、呉地会長は温暖化でシベリアの繁殖地の雪解けが早まり、繁殖の成功率が高くなったことなども一因とみている。



編集室から「こんにちは」

１９９８年幕開けから早くも２ヶ月が過ぎようとしています。みなさん風邪などひいていませんか？今世の中では「殺人インフルエンザ」が流行しています。（注意しましょう）

お正月に私は研究会総会をお休みしまして、北ｱﾙﾌﾟｽ西穂高（2908m）に１泊２日（キャンプ泊）で登山してきました。もちろん第１級冬山です。一般的に危険で難しく思われがちですが、（本当に危険はいっぱい）信頼できるベテラン登山家（今回の登山はYUMEYA 松田氏と２人）とﾁｬﾚﾝｼﾞ精神があれば、不可能ではありません。（穂高にかなり憧れていたので）チャンスがあれば１度トライしてみてはいかがですか？そこには「気高く美しい神々が鎮座しています。」

そこで４月～５月に研究会「経ヶ岳登山大会」を行いたいと思います。日頃運動不足の方に良い運動になりますよ！（^。^!! good （少しはﾄﾚｰﾆﾝｸﾞしてね）みなさん一緒に行きましょう！

さて、最近はガーデニングブームとかで、かなり園芸に感心が高まっているようです。私個人もかなり好きなので今年はズバリ土壌に力を入れ行きたいです。（女性にもてたい方、必修！）今、温室の中では、ジャスミンがいい匂いをかぐわしています。珍しい花、（洋蘭なんか）情報待ってます。

それではまた次回

（文責　橋本）